新春座談会
～飛躍に向けたまちづくり～

新年あけましておめでとうございます。

新しい年を迎え、平成22年度からは、新しい総合計画のもとに町政が始動します。
今回は、その「第4次総合計画」の審議会の委員を務められた5人に集まっていただき、町長とまちづくりについて語っていただきました。

町長　今日は皆さんに、総合計画に携わって感じたことや松前町を良くしていくためには何が必要かなど、率直な意見を聞かせていただければと思います。まず、自己紹介を含めて、皆さんの活動や、松前町との関わりを教えてください。委員長を務めていただいた愛媛大学の宮崎先生お願いします。

宮崎　審議会のメンバーで唯一、松前町に住んだことがない私ですが、松前町は、まち自体はコンパクトですが、非常に可能性があるまちという印象を持ちました。古いものもあり、新しい人もどんどん入ってくる。そういう点で、将来広がっていく、夢のあるまちだと思います。

町長　夢のあるまちとはうれしいですね。三好さんは商工会長であるし、地元を良く知っていますね。

三好　商工会では、日ごろから地元で何ができるか話し合います。昨年オープンしたまさき村が順調な滑り出しをしています。納品していただいている地元農家の皆さんの目が輝いているのを見るとよかったなと思います。その一方で、松前駅周辺の商店街がさみしいですよね。店が閉まって日々の買い物に困るという人がいる。2年前に「まちのにぎわい再生委員会」を立ち上げましたが、今一つ上手くいかない。今回方向転換して、小学生からお年寄りまで、日本画や陶芸など様々な作品を発表するミニギャラリーを作ろうと考えています。そこに友だちや家族、町内外の人を集めることでにぎわいを取り戻そうと思います。

町長　いいお考えですね。お子さんも育てられ、主婦の立場である渡部さんはいかがですか。

渡部　私は中山町の出身で、今は徳丸で3世代8人で暮らし、北伊予中学校のPTAをしています。子育ての面で日々感じるのは、地域の人の協力がありがたいということです。スクールガードができてから、痴漢などの被害もなくなりました。安心して子どもたちを送り出せるって、主婦にとって心強いことです。地域で「みんなの子ども」という感じで子育てができることが、楽しく子育てができる理由だと思います。

町長　そうですね、地域が一緒になって子育てをするって素敵なことです。聖カタリナ大学の畦地先生はずっと松前にお住まいですか。

畦地　はい。私は松前町から出たことがないので、見えないまま、考えないまま松前に暮らしていましたが、この年齢になって、ここに生まれてよかったなと感じています。大学では社会福祉を教えていますので、その面から、なぜ松前が魅力的かと考えると、生活が安心安全だということが根本にあるからだと感じています。

町長　今まさに社会福祉の現場にいる山口さん、どうですか。

山口　私は社会福祉協議会の会長として松前町の福祉に携わっています。松前町の高齢化率は23．6％ですから、高齢者が自立できるように、考え方を変えていかなければと思います。また、区長、老人会長、大井手川水郷を守る会のボランティアなどの地域活動を通じて、地域のことがよくわかってきました。気になるのは、皆さんあまり地域のことを知らないということと。長い間地域に住んでいるから、地域の宝を良く認識してないんじゃないでしょうか。地域の宝を掘り起こして磨く。これは地域に住んでいる人の大事な仕事じゃないかと気づいて、今、力を入れているんです。

テーマ1　キャッチフレーズ

町長　自治体にはいろいろなキャッチフレーズがあります。松前町のキャッチフレーズはと聞くと『教育の町』と答える人が多いと思いますが、総合計画のキャッチフレーズは、これまでは『人とみどりが輝くぬくもりのまち　松前』でした。第4次総合計画では『水きらめき　笑顔あふれる　ライフタウン・まさき』に変わります。この将来像を掲げてまちづくりを進めていくわけですが、このキャッチフレーズをどう思いますか。

宮崎　基本構想の議論をしていく中で、ほとんどの委員が松前町の最大の財産は『水』であるとおっしゃいました。この水を生かして守っていくということ、都市にも近い、かつ田園風景も広がっているという自然的な特徴を生かして住みやすいまちをめざすこと。これらの想いがこのキャッチフレーズにしっかりと表れていて、いい言葉だと思います。

畦地　このキャッチフレーズから、水が豊かで、田園風景が美しいという、日常の中での光景

広がる田園風景

町内各地で見られる自然の湧水

子どもたちの安全を見守るスクールガード

第4次総合計画キャッチフレーズ「水きらめき　笑顔あふれる　ライフタウン・まさき」

が松前町への愛着を育んでいることを感じます。『ライフタウン』のライフは、生きる・生活ということで、このキャッチフレーズにはすごく大切なものばかりが込められていますね。

町長　『ライフタウン』という言葉は、私がこの何年か使っている言葉です。今のように交通・情報通信が発達する中で、ベットタウンという言葉は、いかにもただ寝る所で、活動は別の所でやっているという印象があって好きではありません。

山口　『ライフタウン』には安心安全のまちづくりが必要ですが、コミュニティづくりも大事だと思います。それには、学校と提携した公民館活動が欠かせません。そうしないとあたたかいまちは作れないですから。

三好　松前町はとにかく立地が良いところです。3万の人口で、松前町独自の、まさに『笑顔あふれる』まちづくりができる。

町長　三好さんはまさに『笑顔あふれる』がピッタリ。このキャッチフレーズに見るように、町民一人ひとりが笑顔で、いきいきと住み、働き、学び、憩い、楽しむことのできるライフタウンを作ろうという将来像を描いているわけですが、その将来像をめざしてまちづくりをするときの基本理念が、『自立・共生・飛躍』という言葉で表わされます。

テーマ2　自立・共生

町長　新政権になって、地方にこそ主体があるという考えになりつつありますが、私が町長になったばかりのころは、何かあるとすぐ役所へという話が多かった。それが自主防災組織を作ってもらい、『共助』という言葉が浸透するに従ってだんだん自分たちでやるという気持ちが出てきました。自立をし、一人じゃできないから、共助・共生する。これが今後地方のまちづくりには大事だと思います。

宮崎　確かに、住民一人ひとりが何ができて、できないかということを自覚することが大事です。それがコミュニティとなってつながり、集結してまちができますからね。

町長　商業をみてもそうです。商売というのは、作る人と売る人との共生が必要ですよね。

三好　商いが広域化していることから、アグリベンチャー※なんかも、どんどん商工会として支援していこうと考えているところです。ますます幅広い商工会活動が求められています。

山口　各地区の自主防災組織の状況報告をしたとき、訓練への参加者が増えたという話がありました。住民の意識が少しずつ変わってきているからでしょう。運動会にしても、近ごろは子どもに主体性を持たせて、中学生に役割分担をさせています。福祉の問題にしても、隣近所の高齢者を見守っていく。お互いが助け合う共生が大事ですよね。

渡部　運動会の話ですが、地域の運動会の時には、部活を全体にしましょうと校長先生に言っていただいたんですが、子どもたちが嫌だと言ったんです。そんな、おっちゃんらの運動会嫌よと言った時、「何を言ってるの、そのおっちゃんらに見守られてあんたたちは大きくなったんよ」と話して、今では、放送係や審判などを中学生がするようになりました。それを小学生は憧れの目で見て、次は自分たちの番だと思っています。そういう中で育った子って、いまだに地域の運動会に行きます。こういうことが、松前町でどんどん広がっていけばいいですね。

町長　そうした住民同士の共生と同時に、自然との共生も出てくると思いますが、その辺はどうでしょう。

畦地　まさにそこが薄れてきているところだと思います。自然が情緒を育み、自然を通して多くの人が触れ合って、人と人とを結びます。自然を大事にしていかないと、人間同士のつながりが希薄になりますから、大事に残していくべきだと思います。

渡部　大渇水の時、松前町だけは渇水になりませんでしたよね。あの時、水のありがたさをみんな感じたと思います。でもよく考えれば、水があるのは森林があるからです。こうした自然の恵みを知るためにも、子どもたちが泥田に入って田植えをし、刈り入れて、餅つきをして、しめ縄を作るといった、自然に触れる機会を作ることが大切だと思います。

町長　そうですね。環境を大事にしなければいけないという考えが広がっています。松前町には山がありませんので、災害の面では土砂崩れがなく安心ですが、自然の恵みという面では、私たちは他の地域以上に自然に対する想いを持つべきです。

テーマ3　飛躍

町長　松前町は比較的、財政面や立地条件、自然にも恵まれています。我々にとって良いことですが、これから松前町をどうしていくかという時に、現状維持で甘んじていては、私は未来がないと思います。自立をし、共生をし、もっと松前町を伸ばしていこうという『飛躍』がなければ。では、松前町はどうすれば飛躍できると思いますか。

米作りを通じて地域の人とふれあい、自然の大切さを学ぶ小学生

地域の運動会で運営を手伝う中学生

● 松前町長
白石　勝也

● 松前町社会福祉協議会長
山口　久夫

● 聖カタリナ大学准教授
畦地　利枝

※アグリベンチャー…生産だけでなく、加工、販売までを含めた、企業としての農業

● 愛媛大学法文学部教授
宮崎　幹朗

● 松前町商工会会長
三好　茂

● 北伊予中学校 PTA
渡部　恵美

山口さん、お互い年をとりましたが、これから100歳めざして生きていく中で、飛躍に向けた老人パワーというのは。

山口　やはり健康寿命ですね。元気でないと楽しくない。自分自身が元気でいるために取り組んでいるのが、きれいな環境づくりです。6年前から地域で資源ごみの回収を始め、地区の皆さんに協力していただいています。思いがけず、これでコミュニティづくりができました。地域の活動に出ることは、個人も地域もまちも元気にすることだと思います。

町長　三好さん、商売人が元気じゃないと、町が元気にならないと思うのですが、商業面から見て、どうすればまちがもっと発展できるでしょう。

三好　工業団地を早く作って若い起業家をどんどん呼べばいいと思います。松前町はものすごく立地条件がいい。これをうたい文句に、例えば若い人が起業するのに、5年間は法人税無料にしますよとか、空いている部屋を貸しますよというようなことができればいいと思います。

町長　松前町に限らず愛媛県全体が温暖で恵まれた地域です。つまり、どの地域でもまずまずのレベルのことができる。ですから、他とは違う、一歩上をめざすには飛躍が欠かせません。飛躍に向けた秘訣、展望は、宮崎先生どうでしょうか。

宮崎　審議会での議論で、松前町には特別な課題はないんだという話がありました。今はそうかもしれませんが、一番考えていかなければならないのは子どものことです。若い人が育って、働きながらここに住んでいけるような夢・ビジョンを持ったまちにすべきです。広い田んぼがあって、家も立派なものがあって、今おかれている状況はあまり危機感がないでしょうが、まずは、この豊かさを知ることが必要ですよね。

町長　どの分野でもいいので、具体的にこうすれば将来が明るい、他と違うという提案を聞かせてください。

山口　松前駅周辺を明るくにぎわいのある場所にすべきです。駅を含めて区画整理をして、将来性の持てる地域にすれば、松前町の誇りである義農作兵衛を中心とした文化財をPRして、観光客を呼ぶこともできます。それから、私の小さい時の思い出といえば、川や池で魚を捕って遊んだことです。松前町には、福徳、有明、ひょこたんと、すばらしい湧水の公園があって、川の水がきれいです。これを町外の人にも見て触れてもらえるように、有明公園から塩屋海岸まで、川沿いにサイクリングロードを作れば、町外からも大勢の人に来てもらえるんじゃないかと思います。

畦地　飛躍には、住民一人ひとりの意識の高まりが必要だと思います。今回の総合計画では、はじめて各年代の住民との意見交換をしたということでしたが、時間がある限り、こうした検討会を各所で開けば、一人ひとりが課題を見つけ、魅力を発見する機会になると思います。

渡部　松前町独自の教育をするといいと思います。今、どこも子どもが減っていますが、少人数学級であるとか松前町独自の教育をして、全国そして世界で活躍できる子どもを育ててほしいです。それから、2018年の愛媛国体では、各学校で「私は何県の応援」というように、身近なアスリートに触れる機会を取り入れて各競技に応援に行きましょう。子どもたちが自分もなりたいなと夢を持つきっかけになるはずです。

三好　審議会でも特徴がないまちという意見が出ました。これを打破するためにも、松前の珍味が全国の80％のシェアを占め、珍味発祥の地だというのを前面に打ち出すことが必要だと思います。姉妹都市の北海道松前町とも連携してPRをしたいと思います。

宮崎　そうですね、名産品からまちのブランドを作るのは、とても有効だと思います。あるいは、まちそのものを売るブランドを作ってもいいかもしれません。それは教育の面でもいい。スポーツなどで学校を越えて、まちとして何か活動する。そういうきっかけを一つ作ってまちをアピールできると、松前町は大きく飛躍できると思います。

町長　私も、自分が生まれ育った松前町を、どのようにすればレベルの高いまちにできるかと日々考えています。確かに、松前町ではこんなことをやっているということで注目を集めるというのも一つの方法だと思います。例えば、私が子どものころを振り返れば、常に海に出て遊んでいました。この海を上手く使って、海で家族そろって遊べるようなところを作る。また、東に行くと、田園地帯が広がっていて、湧水がある。こういったところを遊歩道でつないで、車を気にしないで歩けるような場所を作れば、子どもからお年寄りまでが楽しめる場所になるはずです。それから、将来松前町を飛躍させる鍵をにぎるのは、子どもです。私は、北伊予っ子とか岡田っ子じゃなく、『まさきっ子』と言うためには、松前町の子どもたちが一緒になる機会がもっとあっていいと思うんです。例えば、町内3つの中学校を一緒にした入学式を文化センターでやる。松前公園で小学校対抗運動会をやるとかね。そうすれば良い意味での競争力が生まれて、将来を背負ってもえらえるたくましい子どもが育つと思います。もちろん、子どもたちだけでなく、みんなが参加できるような催し物を、いろんな分野でやっていけるといいなと思います。夏まつりや文化祭だけでなく、重信川の堤防を使ったハイキング大会でもいいんです。世代を問わずみんなが一緒になって楽しめる、そんな具体策をこれから少しずつ考えていきたいと思います。皆さんも良い案がありましたら、ぜひ、お力を貸してください。今日はどうもありがとうございました。

町民の声を総合計画に反映させるために開かれたまちづくり座談会

盂蘭盆（うらぼん）には灯ろう流しが行われるなど、地域住民の憩いの場となっている有明公園

享保の飢饉（ききん）の際、身を犠牲にして村を救った作兵衛翁を祀（まつ）る義農神社

浜に建てられた珍味発祥之地を記す記念碑

水生植物を積極的に取り入れたひょこたん池公園

鯉やフナのほか、さまざまな魚が泳ぐ福徳泉公園

12月6日
役場庁舎応接室にて

毎年大勢の人でにぎわうまさき町夏祭り